

事業評価シート【新規事業-1】

事業名	スクールバス運行業務委託事業			基本計画	章	1	総合戦略	基本目標	
事業コード					節	3		施策の方向	
課係名	学校教育課	学務係	内線		項	2		施策	
担当者氏名					職名			整理番号	

事業概要 緑ヶ丘小と二宮小が統合することにより、遠方より通学する児童の交通手段を確保するため、スクールバス運行を実施する。

現在の課題や市民要望など ・通学距離は「義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令」により、原則4km以内が適正とされており、現二宮小学区のうち、黒戸地区、真名地区、押日地区のうち緑園台地区において、通学距離が4km以上となっている。
 ・統合後の通学距離が4km以上の児童を持つ家庭へのアンケート調査により、スクールバスの運行が要望されている。

事業目的
 ① 遠距離通学となってしまう児童36人程度の通学に対して安全の確保を図る。
 ② 通学時間の減少により、家庭の時間を十分とり、健全な育成を図る。
 ③ 二宮小、緑ヶ丘小の統合により、子どもたちにより良い教育環境を確保する。
 ④

個別取組
 ① スクールバスの運行
 ②
 ③
 ④

事業による改善・変更点
 ① 遠距離通学となってしまう児童が安心して通学することができる
 ②
 ③
 ④

事業対象 個人・世帯 団体(民間) 団体(公共) 内部管理 その他 ()

内容
 ① 通学距離が4km以上の児童
 ②
 ③
 ④

業務形態 全部委託 一部委託 直営 負担金・交付金 その他 ()

内容
 ① スクールバスの運行業務委託
 ②
 ③
 ④

支出根拠 有 無 法令要綱等名称 ① ② ③ ④

事業継続 単年度 複数年度:無期 後年度負担 有 無
 複数年度:有期[始期 ~ 終期] 内容

事業費の積算	2年度	準備期間のため費用はかからないものと見込	事業費	0	事務スケジュール	年月	内容		
			国	県		市	債	2.7	入札
			市	債		その他	2年度	業者との打ち合わせ (経路の決定等)	
	3年度	1日あたり 40,000円(時間・距離等) 40,000円×1.1×220日=9,680,000円	一般財源	0		業者によるバスの確保等	3.4	委託開始	
	事業費	9,680,000	国	県		市	債		
	市	債	その他						
	一般財源	9,680,000	国	県		市	債		
	事業費	9,680,000	国	県		市	債		
	市	債	その他						
	一般財源	9,680,000	国	県		市	債		
	事業費	9,680,000	国	県		市	債		
	市	債	その他						
一般財源	9,680,000	国	県	市	債				
事業費	9,680,000	国	県	市	債				
市	債	その他							
一般財源	9,680,000	国	県	市	債				

経費節減効果 有 無 節減効果の内容
 金額 千円

主要指標	指標の種類		計算方法	目標(推計)値			
	名称			3年度	4年度	5年度	
	活動指標	① 児童の安全の確保		利用者数	7,920人	7,920人	
		②					
	成果指標	① 安心した暮らしの確保		アンケートより通学が安全と考える保護者の割合	90%	90%	90%
②							

事業評価シート【新規事業-2】

項目別評価	1. 実施主体・目的の妥当性		<ul style="list-style-type: none"> 自治体が関与すべき事業か。民間で実施できないか。 総合計画における目的に合致するか。課題解決に結びつくのか。
	評価		◎評価理由(上記の観点により記入してください)
	A	A. 妥当である B. 改善する余地がある C. 妥当ではない	小学校の適正な規模の基準を守るため、また児童の安心・安全を守るために市が主体となりスクールバスの運行を実施することが適当である。
	2. 事業の有効性		<ul style="list-style-type: none"> 意図した成果は確実に得られるか。 類似の目的を持つ事業はないか。
	評価		◎評価理由(上記の観点により記入してください)
	A	A. 有効である B. 改善の余地がある C. 有効ではない	通学距離が4km以上の児童をスクールバスで運行することにより、対象児童及びその家族の通学時間に対する不安や、児童の交通安全、また家庭の時間や適正な睡眠時間をとることができる。
	3. 事業の効率性		<ul style="list-style-type: none"> 成果を維持したまま費用を削減する余地はあるのか。 将来的なコストの増加・増大の要因はあるか。
	評価		◎評価理由(上記の観点により記入してください)
	A	A. 効率的である B. 改善の余地がある C. 効率的ではない	スクールバス1台で運行することにより、タクシーを活用するよりも効率的である。 また、児童数の増減にもある一定程度のゆとりをもって実施できる。
	4. 緊急性		<ul style="list-style-type: none"> 今実施しなければならない理由。 実施しない場合の問題点。
	評価		◎評価理由(上記の観点により記入してください)
	A	A. すぐに実施する必要有 B. 2~3年後に実施する必要有 C. すぐに実施する必要はない	令和3年4月1日より二宮小と緑ヶ丘小が合併することから、令和2年度中に事業者の決定及び準備が必要となる。
5. 市民要望・公平性		<ul style="list-style-type: none"> どういう市民要望があるのか。 受益者負担は適正か。 公平性の点から受益の偏り(特定の地域や個人等)はないか。 	
評価		◎評価理由(上記の観点により記入してください)	
A	A. 多くの市民要望有 B. 一部地域・団体等の要望有 C. 要望はない	対象児童の家庭へのアンケートによると、全ての家庭がスクールバスの導入を希望している。通学距離が遠方であることから、受益の偏りはないものと考えられる。	
6. 同規模他市・周辺市町村の状況		<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの自治体で実施、同規模以上の自治体は実施、ほとんど実施していないが先進的な取り組みであるなど、具体的に記述 	
長南町、長柄町、睦沢町にてスクールバス運行を実施している。			

総合評価	■実施計画における位置づけ、財政状況による実現性	
	評価	◎評価理由
	A	A. 実施 B. 一部実施 C. 実施しない 学校再編に伴う不利益を解消し、児童の安全な通学に資する事業であるため妥当である。なお、事業の詳細を十分に検討したうえで実施するものとする。
	■政策調整会議による評価	
	評価	◎評価理由
	A	A. 実施 B. 一部実施 C. 実施しない 学校再編に伴って通学距離が延びる児童に対し、安全な通学環境を提供する事業であり実施は妥当である。
■庁議による方針		
評価	具体的な方向性	
A	A. 実施 B. 一部実施 C. 実施しない 担当課の提案どおり実施するものとする。	